

= 16
2505
1



門 二 18
號 2505
卷 1

明治七年三月

百科全書
人種編

文部省

昭和25年
改訂

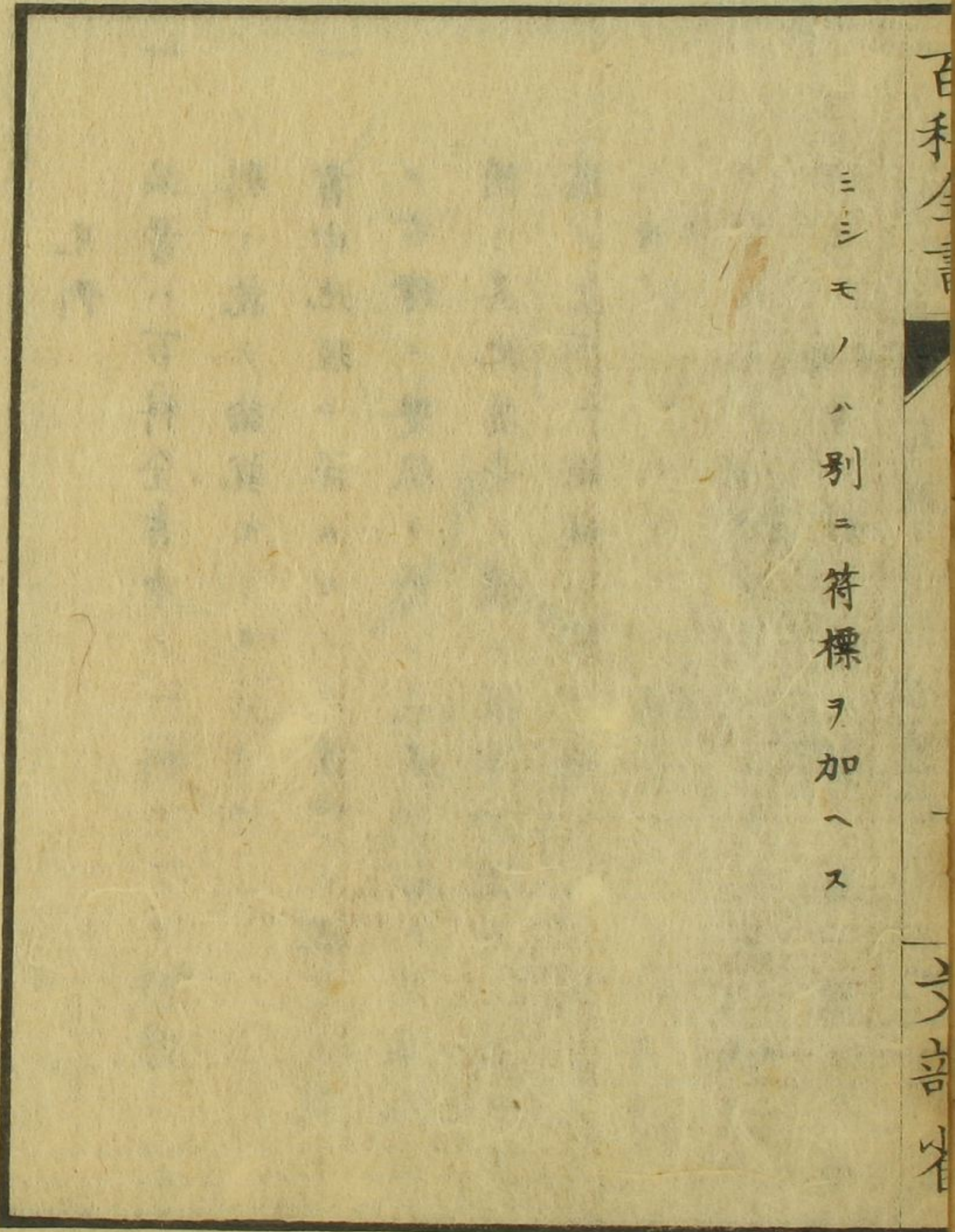
凡例

一 此書ハ百科全書中ノ一科ニシテ種族ノ區別ニ就テ論說セルモノナリ

一 書中地理ニ係ルモノハ漢字ト假字ノ別ナク右傍ニ雙線ヲ附シ人名ノ如キハ單線ヲ附ス其他英音ノ儘ニ假字ヲ用井ルモノハ總テ上下ニ矩域ヲ加フ例ヘハ「イスラム」ノ名種「モノシルベツク」語「アマニスム」宗教「イピテルミス」皮膚「テ子モートル」人身ノカ「ポンド」名量等ノ如シ又人種ノ名ニ漢字ヲ填

百科全書 凡例

三シモノハ別ニ符標ヲ加ヘス



百科全書

人種篇目次

卷之上

人種ノ大區別

人種論ノ性質

モンゴロイデー

アトランチデー

チャヘデー

卷之下

身體骨格ノ差異ヲ論ス

皮膚

毛髮及眼目

頭顱

身軀ノ割合

人身ノ重量

身軀ノ強カ

天稟ノ性質

人類悉ク起源ヲ一ニスルノ説

風土ニ因テ變化ノ生スルヲ論ス

総論

人種篇目次終

百科全書

人種篇上

秋山恒太郎 譯

爰ニ全地球ノ表面ヲ觀察スルニ各地住民ノ皮膚、骨、頭狀、面貌等大ニ殊別アリテ一ナラス而
 ノ此殊別ハ各地ニ固有シテ違ハサルモノ、如
 シ蓋シ此殊別ハ種族或ハ國民ニ附着シテ離ル可
 ラスト云フ確説ヲ為ス所以ノモノナリ方今人
 體史ト云フ學科起リテ上ノ殊別ニ注意シ之ハ
 動物學ニ關スル事柄ニシテ特ニ其人心ヲ感動

セシムルニ至緊至要ナルノミナラス人種往古ノ
 踪跡ヲ推究決定スルニモ亦缺ク可ラサルモ
 ノトシテ之ヲ論セリ
 「^フ井シカールト云フ語ハ形體ノ意ニシテ「^フ井シカ
 ールヒストリ」オスマンハ人體史ノ義ナリ然
 ルニ近世ニ及テ此學科ノ包含スル所極メテ廣
 ク人身外部ノ殊別ニ各種ノ國語ヲ併セテ之ヲ
 論スルニ至レリ是ニ於テ「^フ井シカールト云フ語
 ハ其意義狭クシテ用井ルヲ能ハス因テ方今新
 ニ其名ヲ撰テ人種ノ區別ト云フ意義ナル「^イソ

クロデイ」ト云フ語ヲ一般ニ用井ルニ至レリ

人種ノ大區別

ナモラリス
 究理學者ノ考思ニ據レハ凡動物ノ種類其保存
 養育ノ模様ニ變化ナクシテ始終一途ニ出ルキ
 ハ子孫相續テ其稟ル所ノ天性ニモ亦殊別ヲ生
 スルヲナシ若又子孫相續ノ際ニ於テ其保存養
 育ノ模様ニ變化アルキハ其骨骼形狀等ノミナ
 ラズ天稟ノ氣質ニ於テモ亦其變化ニ從テ殊別
 ヲ生スルモノナリ譬之ハ豺狼ノ如キハ何レノ
 國ニ於テモ廣漠ノ野ニ生育スルガ故ニ其形狀

氣質皆同一ナリ之ト反シテ方今文明諸州ニ散
 布セル種々ノ保存養育ヲ受ル犬狗ノ如キハ其
 形状、毛色及性質ニ於テモ亦大ニ殊別アリテ一
 ナラス是等ノ機關ハ特ニ造化ノ妙造ニ出テ全
 ク此犬狗ヲシテ種々ノ模様中ニ在テ能ク其用
 ニ適シ生育ヲ為サシメンガ為ナリ然レハ此變
 化ニモ亦一定ノ界限アリテ之ヲ踰ユルヲ能ハ
 ス數回變化セシ後其保存養育ノ模様舊ニ復ス
 レハ其形状、毛色及性質モ亦共ニ舊ニ復スベシ
 試ニ歐羅巴洲ニ在ル家猪ヲ以テ米利堅ノ莽野

ニ放ツキハ初メ之ヲ其地ニ獲タルキノ如ク忽
 ロニ牙ヲ生シテ野豬ノ形状、性質ニ復ス可シ方
 今^{ラリ}究理學者種族ノ殊別ト久ク之ヲ保^トトハ天
 地ノ動カス可ラサルモノトシテ信スルハ上ニ
 論セル所ノ旨趣ニ根據セリ譬ハハ驢ト馬トノ
 二物相交ルキハ其生スル所ノ子モ兩種ノ性ヲ
 具有スヘシ然レハ此混和性ハ別ニ一種類ヲナ
 スモノナレハ永久之ヲ保有スルヲ得ス只一
 時形状ヲ變スルノニ故ニ之ヲ造化ノ定則トシ
 テ断スヘキモノニ非ス

此ノ如ク禽獸ノ變化スル所以ノ理ヲ了解スル
 キハ同一原種ノ人類ニ於テモ亦變化シテ許多
 ノ殊別ヲ為シシモノトシテ論スルヲ得ヘシ
 夫人類ハ狀貌氣稟ニ於テ變化ヲ受ルヲ禽獸ヨ
 リ多キハ何ソヤ他ノ動物ヨリモ廣ク全地球上
 ニ散布シ其保存養育ノ模様千種萬類ニシテ自
 然許多ノ變化ニ遭遇セサルヲ得ス隨テ其稟性
 ヲモ亦百般ノ道ニ用井ヘク獎勵セラル、ガ故
 ナリ今地球上ノ人類ヲ若干ニ區分シテ之ヲ國
 訛ト稱ス而ノ其國民中ニ各一個固有ノ風俗

リテ此國民ト彼國民ト別々就中開化ノ進歩
 著シキモノハ其皮膚形體性質ニ於テモ大ナル
 殊別ヲ生セリ故ニ次ニ又許多ノ國民ノ類ヲ尋
 子傳ヲ推シテ數箇ニ區團ス斯ノ如クニシテ遂
 ニ人種ノ大區別ヲ為スニ至ラシム
 人種論ノ學科ハ最近世ニ起ル者ナレハ其數目
 ニ於テモ亦確定セズ一時ノ苟且ニ安ンザルヲ
 多シ但人種ヲ區別セシハ日耳曼人ブルームン
 ベッタト云者ニシテ即動物學ト解剖學ノ用ニ供
 ヘシ為ニ行ヘルヲ以テ嚙矢トナス而ノ其區別

ノ名目大ニ世上ニ播布シ今日ニ至ル迄之ヲ用
井ルヲ以テ此ニ其大略ヲ説カザルヲ得ス
ル一メシベク人種ヲ分ツト左ノ如シ

第一高加索人種 皮膚白クシテ微紅ヲ帶ルア

リ或ハ稍淡黒ナルアリ毛髮柔軟ニシテ稍卷縮

シ其色黒クシテ光澤アリ面長ク額廣ク頭大ニ

シテ鼻狭ク口小ナリ其天稟ノ良心ト才智トニ

於テハ他ノ種族ニ超越ス此種族ハ安日河邊ヨ

リ亞太蠟海ノ間ニ蔓延シ芬蘭人ヲ除クノ外全

歐羅巴古今ノ住民及亞細亞洲ノ印度伯兒西列

シリア亞喇伯ゼウ、フネ子シテアアシテアミノル、高加

索亞弗利加洲ノ厄日多亞比西尼ムール等ノ住

民皆之ニ属ス

第二蒙古人種 皮膚橙黄色アリ或ハ殆ト黄色

ナルアリ毛髮粗直ニシテ長ク其色真黒ナリ面

ノ縝縮スルモノ稀ナリ鬚鬚少ナク瞳子黒ク鼻

短クシテ廣ク頬骨平潤ニシテ凸起ス頭顱長ク

シテ其側面稍平扁殆ト方形ノ如シ額額低クシ

テ高加索人種ノ如クナラス其才智ニ於テハ決

シテ欽乏アルナシ然レモ深考察思シテ創始發

明スルヨリハ摹擬放倣ノ才ニ長セリ此人種ハ
 創始發明ノ智寡ナシト雖氏稼穡耕耘ニ至テハ
 大ニ改正スル所多シ且此人種多クハ其文學技
 藝ノ進歩甚著シキ位地ニ達シタリ只天稟ノ良
 心ハ之ヲ高加索種族ニ比スルニ一等ヲ讓レリ
 往古土^{チル}耳^ル格^ク人^ノモンゴルタルタリ小人等^カ高^カ加^カ索^ス
 人ト戰テ屢之ヲ破リシカニ其勝利ハ只一時ノ
 事ニシテ永久之ヲ保テ能ハサリシ方今ノ芬蘭
 人^ララ^ララ^ララ^ラ人ノ二種ハ古昔ノ蒙古原種ニシ
 テ嘗テ高加索人種ノ為ニ其居地ヲ追ハレ速ク

北限ニ遁レテ此地ニ棲止セシ者ノ後裔ナルベ
 シ此二種ト「イスキモ」種ノ形體ハ大ニ他ノ蒙
 古人ト差違アリ是全ク風土ノ然ラシムル所ナ
 リ

第三 亞弗利加人種

皮膚ノ黯黒ナルト毛髮ノ

卷縮スルトハ皆世人ノ知ル所ナリ其他額額甚
 低ク腮ハ凸起ス鼻ハ厚クシテ低ク口ハ大ニシ
 テ唇厚シ此人種ハ亞弗利加洲内ニ於テ高加索
 人種ノ住メル地ヲ除クノ外皆是ナリ

第四 米利堅土人種

「イスキモ」種ノ外全米利

堅ノ土番皆此人種ナリ皮膚紅紫ニシテ宛然銅色ノ如ク鬚鬚少ナク毛髮黒粗ニシテ長シ瞳子黒ク眼目深窄額額仰キ時ニ或ハ天造ニ及シテ頰骨露起シ鼻ハ高クシテ鈎ノ如ク彎リ頭顱小ニシテ其後部平扁ク頂骨尖リ口ハ大ニシテ唇脹起ス身軀ハ支肢均勻シテ其丈ケ中等ノモノトス是此種族ノ大畧ナリ

第五馬來人種 皮膚淡黒ニシテ毛髮粗黒ナリ口大ニシテ齒牙突出シ鼻短クシテ廣ク恰モ鼻根ヨリ直ニ廣ガルモノ、如シ面貌平濶ニシテ

上顎凸起ス頭顱高クシテ圓形又ハ方形ヲ為シ額額低クシテ濶シ其天稟ノ良心ハ他ノ種族ニ比スレハ最下等ニ位セリ然レハ諸事亞弗利加黑人、米利堅土番トハ甚異同アリ就中資性活潑ニシテ懶惰ナラズ好テ海上ノ作業ヲ為シ又往々其才智ノ精華ヲ顯ハス者アリ故ニ必ス蠢愚ノ種族ト為ス可ラズ此人民ノ占住スル地ハ婆羅チヤム島瓜哇島蘇門答刺島ヒリビ諸島ニイスラシド島及マダカスカル島ノ一部是ナリ

佛蘭西人クウエナル者ハ外貌ト形體トニ依テ

百斗全書
人種篇上
七
支那篇

人類ヲ區別シ高加索人種、蒙古人種、亞弗利加人種ノ三ト為ス而シテ馬來人種、米利堅土人種ノ二ハ蒙古人種ノ支派トシテ之ヲ其中ニ合セタリ又人類ヲ區別セン為ニ動植物學ト語言學トノ十分ナル了解ヲ要メシハ英國ノドクトル、プリチャルトヲ以テ初ト為ス其著ス所ノ「フ井シカール、ヒストリ、オス、メン」上見ハ實ニ人種論ノ基礎ト云フ可シ蓋シプリチャルト人類ヲ區別セシ「フブルトメン、ベックヨリモ多シ譬ヘハブル、ローメン、ベックノ高加索種ト為スモノヲ其語源ノ稍殊異ナルニ

由リテ之ヲ別テ二種族トナス一ハ往昔ノ「フラビアン」即セ「フミタック」種是ナリ一ハ「フインド、エウロペアン」ト云フ方今歐羅巴洲ノ人民過半ト北印度（北印）阿富汗、白兎、西等ノ人民皆之ニ屬ス其用井ル語言ノ源ニ溯リテ究ムルハ彼印度人ノ秘符トシテ尊敬セル梵語ヨリ來レルモノナリ又ブル、ローメン、ベックノ蒙古人種ト稱スルモノヨリチャルドハ之ヲ「フキエラニアン」ト名ツク且亞弗利加種ヲモ二種族ニ別チ一ヲ「フポッテントット」ト云ヒ一

百利全書 人種篇上 八 亞弗利加

ヲ「ブラスメント」ト云テ共ニ亞弗利加黑人種ト異ナ
 ルモノトス又オーストラリア澳大利人種ヲボリ子レテ諸島利澳太
 西南ニアルニ住メルバピア凶人ト異種ナルモ
 群島ノ名ニ住メルバピア凶人ト異種ナルモ
 ノト為ス

ドクトル、ブリチャルド著ハス所ノ書籍一度世ニ
 出ルニ及テ世人競テ人種ノ查究ヲ為サントス
 ル精神ヲ奮興セリ是ニ於テ暫時ノ間ニ無数ノ
 證跡相集リテ此學科ノ基礎ヲ廣ムルニ至レリ
 而シテ此等ノ實事ニ依テ能ク従前ノ説論ヲ改正
 スルコトヲ得ヘシ今次ニ方今人種學ニ於テ最モ有

名ナルドクトル、ラサムノ著ハセル「子チュラヒ
 ストリート」オスゼ、ヴヰリテイ、ス、オフ、メン」ノ中ニ記ス
 所ノ新近ニシテ最モ切要ナル人種區別ノ畧説ヲ
 舉ントフ

人種論ノ性質

人質史ハ專ラ次ノ二條ニ於テ之ヲ論ズ

- 第一 人類ト他ノ乳生物トノ關係ヲ論ズ之
 ヲ「イシソロボロゼ」ト云フ
- 第二 彼人民ト此人民トノ殊別ニ付テ論ズ
 之ヲ人種論ト云フ

此人種論ニ於テ説ク所ハ只風土、飲食ノ模様ニ由テ人類中ニ生スル殊別即骨骸狀貌等ヲ重モトシテ其事業ノ上ニ關セザルガ故ニ歴史學トハ全ク異ナルモノト為ス且現今ノ骨骸狀貌ニヨリテ遠ク其源由ヲ推究セバ歷史上ニ説クヲ能ハサル太古迄モ察スルヲ得ヘシ是ヲ以テ人種論ハ地質學ト同ク之ヲ考古ノ學問ト為スベシ又人種論ニ於テ地球上ノ人類ヲ查究スル方法ハ地質學ニ於テ地層ヲ考察スル方法ノ如ク為シテ人類ノ同一種族タルモノヲ決シ或ハ往

古未^ク記載アラザル時ニ當テ其人類ノ漂泊遷移セル事跡ヲモ著スニ足レリ人種ヲ區別スルニ彼此同原ト思フベキ人類ト雖モ漫リニ之ヲ同一種族ナリト定ムルハ最モ注意戒慎スベシ今爰ニ皮膚黧黑毛髮粗鬆ノ人アリテ各地ニ散居ストモ之ヲ同一種族ナリト定ムルヲ得ズ又言語ヲ同ウシ風俗ヲ一ニシ宗教ヲ共ニスル人アリテ之ヲ同一種族ナリト定ムルヲ得ス必^ズ風土、飲食及其他同一種族タル可キ徵證皆同シキヲ見認メ然ル後初テ之ヲ

同一種族トシテ區別スルヲ得ベシ

博物學ノ一科ナル人種論ニ於テ論スル所ハ質

ト文ノニナリ質トハ皮膚毛髮ノ色頭顱ノ形狀

大小及其他ノ骨骼等ヲ云ヒ文トハ各地ノ風俗

法教語言等ヲ云フ而シテ衆多ノ人類中ニ於テ同

種族ナルヲ證セシニハ其語言ノ類似スルモ

ノニ付テ論スルト他ノ諸件ヲ以テスルニ勝レ

リ何トナレハ彼此懸隔シテ毫モ關係ヲ為サ

ル人民ト雖モ風土飲食ノ如キ外部ノ模様ヲ一

ニスルハ皮膚色ヲ同クシ骨骼形ヲ齊ウスル

モノナリ然レモ單音ヲレテ同一ナラシムル

ハ特ニ同種族ノ間ニアリテ父母兄弟ノ自然

浸漸薰陶ヲ以テ之ヲ誘導スルニアラザレハ決

レテ能ハザルガ故ナリ

國語ニ依テ國民ノ同一種族ナルヲ確定セン

トスルハニ於テ語學者多クハ其共ニスル所ノ

語言ヲ次ニシテ專ラ其同ウスル所ノ文法ヲ取

レリ然レモ全ク語言ノ同キヲ捨テ取ラサルニ

ハ非サルナリ爰ニ數多ノ國アリ其共ニスル所

ノ語言ハ甚少ナリト雖モ尚同シ文法ノ其中ニ

行ハル、ヲ見ル蓋、語言ハ或ハ轉訛レ或ハ消滅
 スルヲアレ、凡文法ハ永久變セサルモノト為ス
 可シ又各種ノ語言中ニ一種近似ノ性アリテ語
 ヲ造ルニ輒ヲ同ウシ或ハ科斗或ハ梵字或ハ希
 ナリト雖、凡其語性ニ至テ語ヲ綴ルニ則ヲ均ウ
 ハ之ヲ共ニスルヲ云フ語ヲ綴ルニ則ヲ均ウ
 レ或ハ屈曲ヲ用非或ハ他語ヲ連合以テ諸州ノ
 シ或ハ屈曲ヲナサハル等是ナリ以テ諸州ノ
 文法語言ヲ一體ナラシムルヲアリ是又注意セ
 ザル可カラス人種區別ノ查究ニ於テ証據ト為
 スベキ語言ハ單純親近ニシテ造化ノ自然ニ出
 テ最モ通常ナルモノヲ貴ブ譬ヘバ父母兄弟身體

ノ大部、天體、單位數、家畜、飲食、起卧、等ノ如ク何レ
 ノ國ニ於テモアラザル所ナキモノヲ云フ其他
 ノ語言ニ至テハ貿易交際等ニ依テ他ノ國民ヨ
 リ此國民ノ中ニ浸入セシモノナラン又一説ニ
 語言ハ諸國民ニ在テ變易ス可カラサルモノト
 ス但、各箇ノ種族數千年ノ間各、純粹ニ其語言ヲ
 同カスレハナリ故ニ語言ノ同一ナルトモ亦彼
 此國民ノ同一種族タルヲ思考スル証ト為ス
 ベキモノナリト
 人種論ノ為ニ設ル所ノ語學ハ通常ノ學校ニ於

テ學ブ所ノ語學ト異ニシテ彼此ノ言辭ヲ比較
シ以テ其原由ヲ論スルモノナリ而シテ此語學ヲ
為ス者ノ語言ヲ論スルト猶格物學ノ如クニシ
テ言辭ヲ以テ天地間ノ諸物ノ如ク一種自然ノ
產物ト看做ス何トナレバ言辭ノ如キハ其意義
同一ナリト雖モ諸國ニ方言アリテ之ヲ同ウス
ルヲ得ザルト猶骨骼、毛色等ノ如ク造化ノ自然
ニ出ツレハ理論ト人意トヲ以テ動カス可ラザ
ルモノナレハナリ上ニ云フ所ノ如ク若シ語言ヲ
產物ト看做ス片ハ地球上ノ萬物ヲ分テ動、礦、植、

ノ三區分ト為ルト同一轍ノ理ヲ以テ語言モ亦
其類ニ從之ヲ分テ三分ト為ルト下ノ如シ
第一「モノ」レレベク語ハ支那語ノ如ク其語言
皆衆韻ヲ綴リ變化ヲ加ヘズ只單綴ヲ以テ成ル
モノニシテ一二ノ字其形ヲ變化セズ單複文章ノ
語ニ性ノ名詞トナリ或ハ形容詞トナリ或ハ現
在動詞トナリ又ハ過去ノ動詞トナル英國ニ於
テ、詞ヲ種々ニ屈曲文法家レテ其變化ヲ示ス
モノヲ支那ニ於テハ只字ノ位置ヲ換フルヲ以
テ之ヲナシ又頗ル迂遠ナル方法ヲ以テ之ヲ別

ミ子「ハ英」ノ「フロム、メン」人カト同シ然ルニ英
語ニ於テハ「メン、イス」持格ノ名詞ニシテ「人」ノ「口
ト」書キ「ノ如キ一二ノ屈曲ナキニ非ズト雖モ
之ヲ古昔ノ羅旬語ニ比スレハ亦屈曲ナシト云
ヒテ可ナリ譬へハ羅旬ノ「スタリブシ」ノ語ヲ
英國ニテハ「アイ、ハブ、ライテン」吾ガ書クト云ヘ
ノ三語ヲ以テシ羅旬ノ「ホミリ」ヲ「ツ、メン」人
ト云ヘル義ノ二語ヲ以テ言ヘルガ如キ是ナリ
蓋英國其他歐羅巴諸州ノ語言都テ往古ハ多ク
ノ屈曲ヲ有セシカニ漸々ニ之ヲ失ヘルモノナ

ラン而シ現今ハ其體稍支那語體ニ近似シテ屈
曲ヲ為サバルニ至レリ
上ニ論セル所ノ主意ニヨリテドクトル、ラサム
人種論ノ為ニ語言ヲ分テ四種ト為ス即左ニ掲
ク
第一支那語體 單語單綴毫モ屈曲ナキモノ
是ナリ
第二「ア」クリ「チ」子「ト」語體 數語言相連綴延
長スルニ依テ屈曲變化ヲ生スルモノ是ナ
リ

第三「ア」マルゲノ「ト」語體 原語ヲ一體ト為
シ別ニ區分スル「ト」ナクシテ屈曲ヲ生スル
モノ是ナリ

第四英國語體 屈曲變化ノ語體ヨリ派レテ
別ニ語體ヲ為スモノ是ナリ

人種論ニ付テ形状、骨骼ヲ論スルハ人種ノ區別
ヲ説キテ後之ニ及ブ可シ然レモ人種區別ヲ論
スルニ付テ切要ナル形體ノ「ト」ハ亦此ニ示サ
ル可ラズ凡人類ト他ノ動物トノ區別ハ其心ニ
アリ而シテ心ノ機關ハ腦ヲ以テ主宰ト為ス然ラ

則腦ヲ盛ル所ノ頭顱ト腦ノ運用ヲ示ス所ノ
形相トヲ以テ人類ノ種族ヲ區別スル第一ノ證
徴トナス可シ故ニ解剖家ハ從來只頭顱ノ形ヲ
以テ人類ノ區別ヲ定メタリ

頭顱ノ堅トハ前頭骨額ヲ為スト後頭骨頭後即枕骨ヲ
トナス所トノ間ノ直径ヲ言ヒ頭顱ノ幅トハ頭顱
ノ兩側ヲ為ス所ノ左右顱頂骨ノ間ノ直径ヲ言
フ此二直径ノ長短ニ由テ種族ノ區別ヲ示スモ
ノナリ歐羅巴人種及黑人種ハ蒙古種ニ比スレ
ハ頭顱長ク而シテ更ニ注意ス可キハ額骨ノ鉛直

ト仰斜トノ二頂ナリ日耳曼人カムペルハ此鉛
 直ト仰斜トヲ以テ總テ頭顱ト腦液トヲ有セル
 動物ノ造化ヨリ賦與セラレタル神識ノ多少ヲ
 算フル標的ト為セリカムペルノ面角起面骨ノ凸
 ヲ測ル方法ハ次ノ如シ先一直線ヲ耳底ヨリ鼻
 脚マテ引キ次ニ額ノ中心ナル最高キ点ヨリ上
 顎ノ最凸起スル所ニ一鉛線ヲ下シ而シ其頭ヲ
 側面ヨリ見ルハ則チ面角ヲ知ルベキナリカム
 ペル嘗テ云フアリ獨諸動物ノミナラス方今各
 國人民中ノ頭顱間ノ區別トハ此二線ヲ以テ測

リタル面角ニヨリテ言ヘルモノナリ而シテ造化
 モ亦此角度ヲ以テ諸動物ノ種類ヲ區別シ人類
 中ノ麁惡下劣ノ種族ト其形狀最美麗ナル種族
 トノ等級ヲ定メタルヲ知ルベシト○禽鳥ノ
 頭顱ニ至テハ其角度最小ナリ而シテ諸動物ノ人
 類ニ近似スルニ随テ其面ノ角度モ亦大ナリ猿
 ノ種類ニ面角四十二度ナルモノアリ又猿ノ一
 種類ナル「シミニ」ハ面角五十度ナルモノアリ
 之ニ次グモノハ亞弗利加黑人種ニシテ其面角
 「カルモック」詳未ノ如ク七十度ナリ歐羅巴人ハ其面

角八十度ヲ為ス蓋歐洲人他ノ種族ニ勝レテ美
 麗ナルハ全ク此十度ノ多角アルニ依ルナリ古
 昔ノ塑像アポルロー及メダサノ頭最美麗ナル
 ハ其面角極メテ大ニシテ一百度ナルガ故ナリ
 又陰ニ腦ト關係ヲ為スモノハ頰骨ニシテ總テ
 人類ノ形相ハ頰骨ノ高サノ多少ニ依テ差違ア
 ルモノナリ凡人面ノ平濶ナルハ各國皆同シ然
 ル所以ハ頰骨ト耳朵ノ間ニアル衝骨ト云フ弓
 形骨ノ凸張スルニヨレリ又諸種族ニ於テ上顎
 骨前面ニ突起シテ齒牙斜メニ生スルモノアリ

此ノ如キ頭顱ヲプロガナシクト云フ此語ハ齒
 牙直立ノ義ナルホルソグナシクニ反對セルナ
 リ
 ドクトルラサム人種ヲ別テ蒙古人種、亞弗利加
 人種、歐羅巴人種ト為ス、^{モリス}ク^{ゴリス}氏ノ三區別ト
 異同アルナシ而メク^ウエ氏ハ解剖學ニヨリテ
 之カ查究ヲナシラサム氏ハ國語學ニ據テ之ヲ
 思考セシニ二說ノ斯ノ如ク旨趣ヲ同クセルハ
 實ニ奇ト云フ可シ且此二說ハ互ニ相資ケ相證
 スルニ足レリラサム氏又此三種ノ區別ヲ教示

百和全書

人種篇

第百一

那人及支那ト連合セル諸國ノ人民即圖伯特
人、安南人、暹羅人、東蒲塞人、緬甸人等是ナリ而
ノ其語言ハ凡テモノシルラビクニシテ一モ
屈曲アルヲナシ教宗ハ佛法ヲ奉ガルモノ多
シ目ノ斜メナルハ蒙古人種一般ナリト雖
就中支那人ヲ甚シトナス
乙「チラニア」種 此種族ノ占有スル地方甚
廣シ其形狀、骨骼、全ク「モンゴリアン」ノ模範ニ
シテ語言ハ「スクリプ」チ子「ト」語體ノ如ク屈曲
アリ又此種ヲ小分シテ「モンゴリアン」「チンガ

シアシ」「チルクス」「オグリアン」ノ四種族トス○
「モンゴリアン」種ハ「スタモ」ノ砂漠ニ住メル蒙古
原種「バイカル」湖邊ニ住メル「プリーツ」人「カル
モック」人等是ナリ○「チンクス」種ハ「レナ」河上及
「オコッカ」海邊ニ住メルモノニシテ支那ヲ滅セ
シ「滿洲」人モ之ニ屬セリ○「チルク」種ハ「サン」
「砂漠」ニ住メル「チルク」種ト「キルジス」「ウオスベツ
キス」「チュルコマン」及「都兒格」帝國ノ「オットマン」即
「オスマンリ」並ニ「魯西亞」帝國ノ「チルク」等
是ナリ而ノ往昔ノ「ス」チ「ア」人ノ過半ハ蓋シ

此「ユルク」種ナルベシ又古代ノ有名ナル創業者多ク此種族中ヨリ出シナラン都児格ノオスマンリース及其他ノ地方ニ於テハ或ハ外國ト嫁娶ヲ為シ及其他ノ原因ニ依テ大ニ蒙古種ノ状貌ヲ變セリコンスタチノープルニ住メル「ユルク」種ノ如キハ頭顱圓ク面容楕圓ニシテ目ノ位置正ク鬚長キモノナリ

○オグリアン種ハ北氷洋ニ浴テ那威ヨリゼニシ一河迄ノ間及之ト隔離セル匈牙利ノ地ニ住メルモノナリ即魯西亞ニ於テハウラル

山ノ兩側及南ハアストラカンヲ限リテザルガ河邊ノ住民ニシラント人エソニア人及瑞典那威ノラブランド人匈牙利ノマグヤルス人等皆オグリアン人種ニ屬ス故ニマグヤルスヲ除クノ外ハオグリアン種ノ住メル疆域一處ニアリ又スカンジナビアニアル古キ土豚ヲ見レハ往古ハ此オグリアン種ノ廣大ナル地ヲ占有セシトヲ知ルベシ又更ニ古キ墳墓中ニ鍍造ナラザル器械及頭顱ヲ存スルモノアリ此頭顱ハ廣濶ナルカ故ニオグリア

人種ノ頭顱タルヲ察スベシ○オグリアン諸族ハ往古ヨリ「サマニスム」ト云フ拜像宗ヲ奉ゼシガ今ニ至テモ猶然ルナリ

第二「ヂオスクリアン、モンゴリアン」人種 黒海東邊ノ港ナルヂオスクリアスハ古昔高加索人種ト貿易ヲ為スノ首市場ニシテ其地方ニハ各種數多ノ語言ヲ用ルヲ以テ顯著ナルモノト為ス而ノ方今ニ至テモ尚其風ヲ存ス蓋「ヂオスクリアン」ノ名ヲ以テ此種族ニ名ツクルハ之ガ為ナリ○往古ヨリ數千年ノ間歐羅巴種族トセ

高加索ノ住民ヲ以テ全ク其種族ニ非スシテ却テ皮膚橙黄色ニシテ面容平濶ナル蒙古種ノ一派ナリトスル一實ニ驚クベシ蓋高加索人ノ皮膚、骨路等ノ模様ハ歐羅巴人ニ同シト雖ヒ其國語及其他ノ事跡ニ至テ大ニ之ト異ナリ譬ヘバ高加索人ノ語言ハ支那及他ノ「セリクホルム」種ノ如キモノシラビク語ニ近似シテ彼「ヒラニア」種ノ語言ニモ類似セス故ニ高加索人ノ身體形状ノ美ナル一實ニ世ニ想像スル如クナラバ是全ク風土ノ模様ニ由テ其體質ヲ變マシ

モノトナスベシ

此高加索人ヲ以テ人類中最高上ナル種族ト為
 セル理論ノ興レル根原ハ甚微ナルドクトルヲ
 井山氏之ヲ論シテ曰クブルームンベック氏嘗テ
 多ク頭顱骨ヲ集テ之ヲ所持セシガ其中最美麗
 ナルハセオルヂア婦人ノ頭顱ニシテ希臘人ノ
 頭顱之一次グ是ニ由テ此セオルヂア婦人ノ頭
 顱ヲ以テ他種族ヨリ美麗ナル歐洲人民ノ頭顱
 ノ模範トシカウカシアント云フ名ヲ以テ此ノ
 如キ頭顱ノ種族ヲ稱スルニ至レリ但一頭顱ニ

シテ學科上ニ患害ヲ為スヲ實ニ此セオルヂア
 婦人ノ頭顱ヨリ大ナルハナシトシルカシア
 種族中顯著ナルモノハセオルヂア人レスニア
 人ニセダイー人アイロン即チオセツ人及シルカシ
 ア人は是ナリ

第三「オセアニック、モンゴリダイー」人種 此種族ハ

モウリラスポールボン、島錫蘭島マルヂグスラッ
 カジブス、日本及其近傍ノ群島ヲ除クノ外印度
 洋ト太平洋トニ在ル群島ニ住メリ而シテ大地ニ
 住メルモノハ摩羅哥半島ノ外決シテ之ナシ此

種人論 種人論 種人論

種族又小分シテ二ト為ス即下ノ如シ

甲馬來人種 皮膚黒色ヨリハ橙黄色又ハ鶯

色ニシテ毛髮ハ長ク其色黒クシテ且直シ

門答刺 婆羅 瓜哇 摩羅 哥南海群島等ニ住メル

モノ是ナリ

乙子グリトヲ人種 皮膚黝黒ニシテ殆ト黒

人種ニ類似ス毛髮大抵長クシテ直シ然レハ

或ハ卷縮皺緜スルモノアリ其開化文明ノ進

歩ニ至テハ實カニ馬來人種ニ劣レリ此種族

ノ占住セル地ハゴイ子ア 澳大利タスマニ

ニューアイルランド及ニユーアイルランドト

一カレトニ一ノ間ニアル群島是ナリ

此二種又分レテ數派ヲ為ス而ノ馬來人種ハ其

事ヲ為スニ果敢ナルト貿易ニ精勵スルトヲ以

テ最著ハレ遂ニ東方 子シア人ノ号ヲ受ルニ

至レリ此馬來種ノ中ナル「ポリネシア」種族ノ

過半ハ其形状骨骸甚歐羅巴人種ニ似タリ

第四「ハイベルボレーン」モンゴリ「タイ」人種 此

種族又分テ「サモイッス」種「ゼニレアン」種「チユカヒ

リ」種ノ三ト為ス皆北氷洋ノ沿海ニ住メリ止

白利堅領ノ「サイツ」種ハ其形状甚^クエスキモ^ト種ニ近キモノナリ

第五「ベニシユラルモンゴリ」人種 此種族

ハカムサツカ及^ク高麗ノ半島且其地脈ノ群島ニ

住メルモノニシテ高麗人、日本人、干島人クリエラスカムサ

ツカ人等是ナリ蓋此種族ノ支那種族ト異ナル

所以ノモノ支那人ノ用井ルモノシラビツカ語

ノ別派ヲ用井ル故ナリラサム氏ノ説ニ「ベニシ

ユラル、モンゴリ」種ノ語言ハ米利堅土人ノ語ニ甚^ク類似セリト

第六「アメリカン、モンゴリ」人種 米利堅ノ

北限ナル「グリーランド」及「イラスカ州」昔魯西

米利堅等ニ住メル「エスキモ」人種ハベリ

峡ニ接スル「亜細亞」大陸ニモ住メリ是人ヲシテ

米利堅ハ必^ズ此道ニヨリテ「亜細亞」ヨリ殖民セラ

レシモノト云フ説ヲ為サシムル所以ナリ然レ

氏此説ノ疑フヘキモノニ條アリ第一ニハ「エス

キモ」種族ト米利堅土人トノ骨體形状甚^ク差違

アリテ別人種ノ如ク且ドクトル「ラサム」氏ノ説

ニ其形状ヲ以テ定ムルハ彼ノ身軀短矮ナル

「エスキモ」種ハ其鼻扁平ニシテ頰骨凸起シ眼
 目斜ニシテ皮膚黄棕色ヲ帶ハリ故ニ其形相ハ
 蒙古人種ナラザルヲ得然ルニ米利堅土人ハ
 其形相全ク蒙古人種ニ非ス毛髮ハ「エスキモ」
 種ノ如ク黒クシテ直ナリト雖モ其鼻ハ鈎彎シ
 テ頰骨高ク其皮膚ハ銅紅色ヲ帶ベタリト是ニ
 由テ考ルルハ此二種族全ク殊異ナルモノナリ
 第二ニハ語言ヲ以テ論スルルハ「エスキモ」種
 ハ全ク蒙古種ニ非ザルニ似タリ其故ハ「エスキ
 モ」種ノ用井ル語言ハ歐羅巴亞細亞ニ用井ル

モノト甚異ニシテ唯其文法ニ至テ米利堅土人
 ニ同シ故ニ此二條齟齬シテ一致セズ形體ヲ以
 テ説クルハ「エスキモ」種ハ蒙古種及亞細亞種
 ニシテ米利堅土人ト異ナリ言語ヲ以テ言フル
 ハ米利堅土人ニ似テ蒙古種及亞細亞種ト同シ
 カラス然レモ今東方大陸ニ住メル「エスキモ」
 人種ト南方ニ住メル「エスキモ」種族トヲ比較
 スルルハ甚殊別アリ又東方ノ「エスキモ」種ト
 西方ノ「エスキモ」種ト比較スルルハ差違アル
 ナレ是ニ由テ之ヲ見ルルハ初イラスカ洲ニ住

メルエスキモ種漸々南ニ移リテ遂ニ方今ノ
土人ト變セシモノナラン而シテ米利堅土人中ニ
真ノ銅紅色ヲ帶ルモノハ稀ニシテ唯、イロクエ
ースアルゴクエンノ二種及其他一二ノ種族
ニ過ギス又新世界南北米利堅即チ各種族ノ語原
及單語ニ違ヒアルヲ舊世界歐羅巴亞細亞亞弗利加即東半球ヲ云
フ各國ニ於テ違ヒアルコリハ更ニ甚シト為ス
然レテ新世界ノ數種ノ語言ハ總テ同一ノ理ニ
基イテ之ヲ造レリ而シテ是ニ依テ自カラ一箇ノ
風ヲナセルナリ此等及其他ノ證據ニヨリテ米

利堅土人ハ原來何レノ人民ト同種ナリマヲ決
定スルヲ得可シ
第七「インディア、モンゴリデー」人種
マール錫蘭島マルダブスラカシガ井ス及ベロチ
スタン一部ノ住民皆之ニ屬ス而シテ骨骸形状ノ
違ヒニヨリテ之ヲ二派ニ分ツ一ヲ淡黑種ト為
ス其色殆ド深黑人種ニ近ク其形相恰モ蒙古人
種ニ似ルアリ或ハ亞弗利加人種ニ類スルアリ
一ヲ鶯色種ト為ス此種ハ概シテ皮膚鶯色ナリ
ト雖モ間、白色ナルモノアリテ歐羅巴人ノ如キ

頬骨及楯圓ナル面容ヲ持ス但淡黒種ハ多クデ
 ガンノ地方及南印度ニ住ス此北方ノ印度人ナ
 ル印度ガングク種ノ語言ハ多ク梵語ヲ用ル
 故ニ或人此種族ヲ以テ梵語ノ根原ナリト為セ
 リ然レドドクトル、ラサム氏及其他ノ諸學者文
 法ノ模様ヲ以テ其語言ハ梵語ニアラサルモノ
 トセリ此種族ノ奉スル教宗ヲ「ブラアミニユレム
 ト為ス又淡黒種「カ」種ノ支派ナル「タムル種
 ハ猶上古ノ偶像宗ニ歸依セリ而シテ前ノ鶯色種
 ニ比スレハ其語言中ニ梵語ヲ用ルルコト少ナシ

「アトランチ」ト「アフリカ」ト 亞弗利加人種

ドクトル、ラサム氏ノ説ニテ亞弗利加ノ全種族
 及「シーリア人」及「喇伯人」ノ二種ヲモ皆此種族ニ
 属セリト蓋此「シーリア」及「喇伯」ノ如キ最上等ナ
 ル人民ト亞弗利加人ノ如キ最下劣ナル土人ヲ
 同種トナスハ實ニ驚クベシ然レド「ス」ノ如キ優
 劣ヲ生セシハ彼此ノ言語相同ウシテ差違ナキ
 ガ如ク漸ク以テ成リシモノナリ之ニ據テ此種
 族ノ同一ナルコトヲ知ルヘシ此種族ノ形状ヲ概
 言センニ額凸起シテ額仰キ鼻平扁ク頭顱狹ク

シテ且上ニ張ル眼目斜メナルモノ少ナク皮膚多クハ深黒ニシテ純白ナルモノ甚稀ナリ毛髪ハ粗ニシテ卷縮シ勁直ニシテ光輝アルモノ少ナシ語言ハ都テ「ククリチ子」ト語ニシテ稀レニアマル「ディメ」ト語ヲ用ヰルナリ又割勢ノ如キ惡習此土人ノ中ニ行ハル此種族ヲ分テセトナス即チ下ノ如シ

第一「子ゴロアトアンチ」ト人種 此種族ハ皮膚深黒ニシテ脂肪多ク毛髪粗ニシテ卷縮シ顎骨凸起シ鼻平扁ク唇厚シ此種ヲ「子ゴロ」ト原種ト

ナス然レモ他種ニ比スレハ其占ムル所ノ地方甚狭クシテ只亞弗利加ノ西方ニ於テハ「セ子」ガ川河ヨリ「ガブ」河ノ間ヲ占メ内地ニ於テハ「ソ」リダンニ住ミ又「オ」ベル「ナイ」ル河ノ下流ノ地ニ居レリ大抵亞弗利加人ノ皮膚ハ「子ゴロ」種ノ如キ黝黒色ノモノヨリモ亞喇伯人澳大利人等ノ如キ黒鳶色ノモノ多シ

第二「カフ」メル「アト」ランチ「デイ」ト人種 其骨骼形状ハ「子ゴロ」種ノ一變セシモノニシテ顎骨稍直ク言語モ亦一種ノ風アリ此種ノ住メル所ハ赤道

以北ヨリ南規線磨羯宮マデノ地方是ナリ

第三「ボツテントット」アトランチセダイト人種 此種

族又分テ二ト為シ一ヲ「ボツテントット」ト云ヒ一ヲ

「スアーブス」或ハ「ブスメン」ト云フ共ニ亞弗利加大

地ノ南邊ニ住ス其皮膚ハ黑鶯色ニシテ毛髮ハ

叢生ス身ノ長ク短ク「ベルビス」腰邊ノ軟骨未詳ノ骨ニ

一種ノ状アリ而シテ其語言「クリック」種ニ南亞弗利加

於テ用ルル語ノ調ヲ用ルドクトル「ラサム」氏ノ説ニ此種

族ハ人類中ニ於テ最下等ノモノト為スベシト 此種族中

第四「シロチック」アトランチダイト人種



ノ最著ル、モノハ「カルラス」「イゴース」「ニユミアン」

「ピアリ」等ノ種族ニシテア「ビシニア」「アデル」ニ

「ピア」等ノ人民皆之ニ属ス而シテ都テ「オッペル」ナイ

ル或ハ「ミットル」ナイル河邊ノ地ニ住ス「コブチック」

種及「セミチック」種ト其他ノ亞弗利加種族ト同一

種タルヲ證スル「此種族アルヲ以テナリ」

第五「アマジール」アトランチ「ダイ」人種 方今ノ

「ベルメル」ト稱スル種族ニシテ其骨骼「ゴロ」種

ヨリ變シテ「亞刺伯」種トナリシモノナリ語言ハ

「セミチック」一派ノ語ヲ用非其占ムル所ノ地ハ「ア

トラス山サウラノ沙漠及カナリイ群島トナス
 第六「イダプチア、アトランチデー」人種 古昔
 ノ「^イ日多人ニシテ方今ノ「^コプス」人種是ナリ其
 語言及形状、骨骼ニヨリテ或ハ「^{メル}ベル」人「^ユビ
 ア」人種ト同一ノモノトシ或ハ「^アアッシリア」人「^ゼウ
 人」ト同種ナルヲ證セリ
 第七「^セセミ、^クク、^アアトランチデー」人種 亞細亞ノ
 西南ニ住ノル「^シシリア」人「^リリリア」人「^ババビロニア」
 人「^フフ子シリア」人「^カカルテール」人「^エエドム」人「^ゼゼウ」人「^亜亞
 喇伯」人「^イイチオピア」人等皆此種族ニシテ皮膚層ノ

色宜 適シ頭顱廣クシテ長ク鼻直クシテ高シ
 顎骨斜メニ突起ス方今此種族ノ天下ニ關係ア
 ルハ專ラ行儀ノ端整ナルニ在リ方今歐羅巴洲
 ニテ用非ル文字ハ此「^セセミ、^クク」種ヨリ來リシ
 瞭然タリ全世界ノ文字モ亦蓋此種族ヨリ出シ
 モノナラン ○此種族ノ奉スル教宗ハ往古許多
 ノ偶像ヲ拜セシカ近世ニ至テ只一神ヲ念ズル
 教宗ニ變ゼリ此種族ノ中開化ニ進ミシ人ハ「^ベベ
 ウス、^ススクリプチュール」^猶猶太教宗ノ「^キキリスチアン」、
 「^ススクリプチュール」^奉奉スル聖書「^モモハメタン、^ココラン」

馬默殺宗ノ如キ書ヲ以テ自己終身ノ職務ト奉スル聖書ノシテ之ヲ信奉誦讀セリ○凡、世界中ニ於テ初テ市街ヲ建テ帝國ヲ立シハ、エリリア人及バビロニア人ノチグリス河トエフレト河ノ邊リニ創始セシヲ以テ嚆矢ト為スヘシ

方今此セミタク種ノ軀貌ヲ存スルモノハ唇厚クシテ鼻鉤彎シ頭顱大ナルセ、シ人種ト面容楕圓ニシテ唇薄ク手足細クシテ皮膚層鶯色ナル亞喇伯人種トナス

現今マタカスカルノ住民ハ全ク馬來種ニシテ

從來此地ノ土人ナル亞弗利加人種ヲ滅絶セシモノナル可シ而シテ從前此地ニ住ミシ土人ハ蓋シ「ホッテントット」種族ナラン

「チャペ「タイ「ダイ」歐羅巴人種

方今印度歐羅巴人ト名ツケタル歐羅巴諸州ノ重立タル人民皆此種ニ屬ス而シテドクトルラサム氏之ヲ「チャペ「タイ「ダイ」ト名ツケシハ此人民「チャ「フ「ツ」ノ後胤ナリト云フ傳説ニ基キタルモノナリ此ノ説ハ方今歐羅巴洲ノ人民ヲ高加索人ト名ツケテ亞細亞ナル高加索山ノ地方ヨリ

遷移セリト云ヘル普通ノ説ニ反對セルモノナ
 リ
 「チアペテチアペテ」種ノ形状、骨骼ハ方今高加索人ト名
 クルモノ、形状、骨骼ニ異ナラス而シテ此種族分
 テ二種ト為ス
 第一「オクシデンタルオクシデンタル」人種 此種ニ
 属スルモノハ「セルチク」人種ノ住メル國ニシテ
 方今「セルチク」住メル地ハ佛國ノ「ノリタニノリタニ」
 州英國ノ「威勒士威勒士」蘇格蘭蘇格蘭ノ高原、マン島マン島及「阿爾蘭阿爾蘭」
 等ニ過キス然レバ「スウェットランドスウェットランド」往古往古ハ英國全島佛國ノ北部

瑞士蘭スイツルノ一部ニ住居ヲ占メシコト疑ヒナシ加
 之「イデンバイデンバ」スリスリ「意太利意太利」ノ北部モ亦皆其版
 圖ノ中ニ在シナラン又從來同原ノ語ヲ一種變
 用セシハ蓋セルチク種ヲ以テ初メト為スベシ
 而メセルチク語言ハ「アックルアックル」チ子ト語ノ體ヲ
 存セリ方今ノセルチク語又分テ二ト為ス一ヲ
 「カムブリアンカムブリアン」語ト云フ而メ「ウールウール」語コルニ
 ス語「アルモリアルモリ」カンカン語佛佛ノ「ブリタブリタ」州ノ語之ニ属シ一ヲ
 「ゲールゲール」語ト云フ而メ「スコツスコツ」ゲールゲール語「アイアイ
 リス

〔セルチック〕種ハ頭顱長ク頬骨最高レ毛髮眸子
 共ニ深黒ナリ南ウールス人ハ皮膚黒キモノ多
 シ又〔ベリアン〕種西イタルハ眸子淡黒ニシテ皮
 膚ノ色宜ニ適シ毛髮或ハ黄或ハ紅或ハ黄赤色
 フ帯ガルモノナリ
 第二〔インドセルマニツク〕人種 此種
 族ニ属スル歐羅巴人種モ亦區別シテ三ト為ス
 甲〔ゴチク〕即チ日耳曼種也此種族ヲ其形状ニ隨
 テ又二派ニ分ツ 乙〔チ〕種即チ日耳曼原種ナリ眸子碧

ニシテ毛髮蓬ノ如ク皮膚紅赤ナリ又言語
 ノ違ヒニヨリ此種ヲ小分シテ〔ハイゼルマ
 ン〕種〔ローゼルマン〕種ノ二トナス〔ハイゼル
 マン〕ノ占ムル所ハ〔ス〕〔チリ〕〔シ〕ア及〔バ〕テ
 リアノ一部ニシテ〔ローゼルマン〕ノ有スル
 地ハ和蘭ノジチ即チバタビアンサクソンフ
 リシアン等ナリ往古ハノール及ヒウエスト
 ヘリヤニ住ルサクソン人ハ方今全ク跡ヲ
 絶テ或ハ他ノ日耳曼種ト混淆セリ只英國
 ノ〔アシゴロサクソン〕ノミ〔サクソン〕種トシ

種篇
 三
 文部省

テ最著ハル、モノナリ

㊦ラスカングナヒアン種ト為ス眸子或ハ
黝黒或ハ深黒或ハ薄鶯色ナルアリテ一ナ
ラズ皮膚赤鶯色ニシテ毛髮灰色又ハ黒色
ナリ此種ノ住スル地ヲデンマルクスカン
ヂナヒアアイルランド及ハロイ島ト為ス
此「スカンダナビアセルマンス」ト「チェトニッ
ク、ゼルマンス」ト兩種ノ言語ノ違ヒハ左ノ
如シ「スカンダナヒア」ハ只名詞ノ後ニ定冠
詞ヲ置テ之ヲ一語ニ組立ルナリ譬へバ英

語「ト」ブル机ノ意味ナル「ポールド」ト云フ

語ト定冠詞ノ符號ニシテ「ゼ」ノ義ナル「ズ」
トヲ連合シテ一語トシテ「ポールド、ゴト」ト
云フ如キ是ナリ

乙「サルメシアン」種 此種族ノ形状、骨格ハ「
ラニアン」種ニ近ク而メ「スラホニク」種「リヒア
ニク」種皆之ニ属ス

㊦「アリセリ」ニアン種ト為ス方今ハ只魯
西亞領ナルバルチック海邊ノ諸州ニノミ住
メリ然レモ古昔ハ必ス大ニ四方ニ散布セシ

モノナラン又方今ハ滅絶シテ見ル可ラス
 ト雖氏往古ノ普魯士語ハ全クリセアック
 語ニシテコールランドノレナス及リボニ
 アウ^ウルナ等ノ土音ハ皆リセアック語ヨリ
 轉記セシ者ナリ此^リセアニア^ン人ノ人心
 ヲ感動シテ切要ナルハ其用井ル語言即^チ印
 度人ノ神聖ナリト貴重セル梵語ニ甚近似
 セルニ在リ又^リセアニア^ン種ハ他ノ種族
 ニ比スレハ久ク往古ノ偶像宗ヲ奉シテ廢
 セザルモノナリ

丙^ラボニック種トナス此種族ノ一團甚
 大ニシテ魯西亞人セルビア人イルリ
 ア人^セック人^ボヘミア^モル^ハア^波蘭人^{セル}
 プ人等皆之ニ屬ス且方今日耳曼人ノ據有
 セル北日耳曼ノ地ハ記載アルヨリ以來^ラス
 ラボニック種ノ占メシ^テ顯然タリ
 丙^メヂテルレ子^ン即^チタラシク種 古昔ノ
 羅馬希臘等ノ人民及其子孫タルモノ皆之ニ
 屬ス當時ノ希臘語ノ古昔ノ希臘語ニ近似セ
 ル他ノ國語ノ羅馬語ニ近似セルヨリモ甚

シ然レ凡當時希臘人民果シテ古昔ノ希臘人
ノ純粹ナル血統ナリヤハ今爰ニ決言スルコ
能ハズ方今ノ意大利人ハ羅馬ノ血統ニシテ
間、ゴチック種ト混合シタルモノナリ都テ西班
牙半島及佛蘭西ニ於テハ羅馬人曾テ其語言
ヲ留メ開化ノ業ヲ遺シ且其血統ヲ殘セリ又
ギリメン及ワラシアンニ住メルスヴス人ノ
中ニモ往々羅馬人種ノ跡ヲ見ル故ニ意大利
西班牙、葡萄牙、佛蘭西、羅馬ナルラシ
ルモリス
リ等ノ人民ヲ概シテ羅馬種トシテ之

ヲ區別セリ蓋是等ノ諸州ニ在ル人民往古
ハ必ス同一種ナリト云フ説ニ於テハ未確定
セザル項數多アリト雖凡希臘語ト羅甸語ハ
常ニ甚相類似シテ遠カラザルヲ覺ユトクト
ル、ラサム氏ハ地勢ニ依テ此羅馬種族トナス
モノハ意大利ノ南部ヨリ遷移セル希臘人種
ナリトシテ之ヲ論シタリ
ドクトル、ラサム氏ノ説ハ白兒西亞、阿富汗、印度
等ノ人民ヲ歐羅巴ノ人民ト同種族トナシテ説
ニ異ナルモノナリ此二箇ノ人民ヲ同種ノモノ

百科全書
重高止
三
文部省

トセシ説ハ彼此ノ用井ル語言互ニ親シク關涉
シテ別ツ可ラザルニ基ク且千八百年以前ノ頃
ニ梵語ノ學ヲ修ムルニヨリテ來レルモノト為
ス此梵語ハ太古ノモノニシテ印度ノ經文ヲ記
セシ語ナリ而ノ其字形ノ希臘羅甸ノ字形ニ似
タルヲ嘗テ印度人ブラーミンスト云者其國ノ
經文ヲ神聖測ルベカラザルモノト為サンガ為
ニ密カニ希臘ノ字形ヲ模シテ之ヲ造ルカ如シ
然レハ是等ノ謬説ハ行ハレス希臘百兒西亞日
耳曼等ノ語言ノ同一ナルハ既ニ往古ニ於テ之

ヲ見ル而ノ語言ノ考索ニ長シタル日耳曼ノ學
者モ上ノ主意ヲ可トシテ採用セリ是ニ於テ梵
語ト百兒西亞語ハ特ニ希臘語羅甸語及其語言
ヲ傳ヘシ諸州ノ語言ノミナラズ斯拉ボニク語
リモヲニク語總日耳曼語及英吉利語等ノ如キ
歐洲ニ著シルシキ語言ト同一ナリト云フ説ヲ
方今ハ一般ニ信スルニ至レリ故ニ上ノ諸國ノ
語言往古ハ必總テ一種同原ナルヲ疑フ容レス
然ラハ則東西極邊ノ國ノ名ヲトリテ之ヲ印度
日耳曼語ト名ケシモ實ニ誤リトスベカラス然

百利全書
八排箱上
三九

ルニ只威勒士阿爾蘭蘇格蘭ニ用ヰルセルチク
 語ノミ印度日耳曼語ノ未歐羅巴ニ入ラサル以
 前ニ歐羅巴洲ニ固有セル語言ノ遺種ニシテ上
 ノ印度日耳曼語トハ全ク異ナリト云フ説數年
 ノ間行ハレタリ然レモ此セルチク語ノ印度日
 耳曼語ト同原ナルトハ後年ドクトルリチャード
 氏出ルニ及テ初テ明了ナリリチャード氏ハ印度日
 耳曼語ノ名ヲ變シテ之ヲ印度歐羅巴語ト為セ
 シニ方今多クハ却テ此新名ノ至當ナルトヲ信
 スルニ至レリ

語言根ヲ一ニスルハ其人種モ亦原ヲ同ウス
 ルモノニシテ此事決シテ齟齬セス北印度イン
 ドスタニ、ベンカリー等ノ國ニ於テ方今用ヰ
 ル語言ハ全ク往古ノ梵語ヨリ來レルモノニシ
 テ猶意太利語ノ羅甸語ヨリ來レルガ如シ而シ
 又彼希臘日耳曼語ト同一ナル百兒西亞語ハ往
 古ノ「センド」語トテ殆ド梵語ニ同シキ語言ヨリ
 來リレモノナリ故ニ印度人阿富汗人百兒西亞
 人等ヲ東方歐洲人民ノ從弟トシテ之ヲ記載セ
 リ又殊ニ此等ノ人民ト歐洲人民ノ同原ナルト

百科全書

人種篇上

甲

言語

ヲ著ハサン為ニ元來歐洲人民ハ記載以前ニ東方ヨリ漸々遷移セシ者ト云ヘリ此遷移ノ事跡ニ付テ數多ノ傳説アリテ紛々一定セス數回ノ考究ニ由テ印度語ハ梵語ヨリ來レリト云フニ稍疑フ生スルニ至レリ其故ハ印度語ヲ用井ル國ニ於テ其國語ノ中ニ梵語多キハ實ニ然リト雖氏其文法ヲ見ルキハ梵語ノ文法ト聊カ差違アルニ由テ遂ニ疑ヲ生セサルヲ得ス此事ハ特ニ印度ノミナラス阿富汗百兒西亞ニ於テモ亦皆然リ故ニドクトルラサム氏ハ此東方

ノ梵語ハ其土地ニ固有セルモノニ非スシテ反テ他國ヨリ浸入セルモノトナセリ譬ハ北印度語ノ根原ハタムル語ニシテ其中ニ梵語ヲ挿入セルモノ、如シ此ノ如ク從來固有ノ上下ノ等級ヲ生ズルモノハ全ク外國ヨリ侵襲シテ遂ニ其土地ヲ據有セル種族ニヨリテ起レルヲ知ルベシ
爰ニ梵語ハ元來何レノ國ヨリ起レリヤヲ尋ルニドクトルラサム氏ノ説ニ印度地方ニ行ハル、梵語ハ其接界ノ國ニ用井ル語言ト全ク相類

似セズ又ヒマラヤ山邊ノ圖伯特語ノ形ニモア
 ラス又印度半島ノ南部ニ行ハル、タムル語ニ
 モ類セス却テ隔離不通ナルバルタク海邊ノ國
 ニ於テ用ヰルリシニア語ト甚々相似タリ此リ
 シニアシ語モ斯拉ボック語ノ外ハ他ノ歐羅巴
 洲ノ語言ニ似ズシテ是亦隔離セル東方諸國ノ
 梵語ニ類セリト斯ノ如キ判然タル實跡ニ因テ
 ドクトルラサム氏ハ此リシニア語ハ元來亞
 細亞地方ヨリ來レリト云フ世上普通ノ説ヲ取
 ラズシテ反テ歐羅巴ヨリ梵語ヲ輸レリト云フ

説ヲ為スニ至レリラサム氏ノ考思ニテハリシ
 ニアシノ占ムル地方ハ一時甚々廣大ニシテ北ハ
 バルタク海邊ヨリ南ハ黒海ノ邊ニ至リシモノ
 ニシテ其後魯西亞ノ南疆ヨリリシニスラボニ
 アント云ヘル種族侵入シテ亞細亞ノ一部ヲ攻
 畧シ遂ニ其語言ヲ留メ方今ニ至ル迄梵語セン
 ト語ハリ語トシテ其跡ヲ殘セルモノトセリ
 人種ヲ查究スル術ハ地質ヲ查究スル術ト差違
 アルナシ地質學者常ニ造化ノ妙用ニ依テ成レ
 ル地層且其上ニ埋瘞セル動植諸物ヲ仔細ニ查

究スルニヨリテ人類未ダ世ニ顯ハレサル數万年
前ニ溯リ天地創造ノ始ヲ見ルヲ得ベシ而シテ一
ノ地層上ニ他ノ地層アリ又一ノ地層ニ禽獸草
木アリ他ノ地層ニ禽獸草木アルヲ見ル今人種
學ノ國語ハ恰モ地質學ノ地層ノ如ク方今既ニ
絶テ用井ザル語言ハ之ヲ人種學ノ埋瘞物又ハ
化石ト名ツクルモ可ナリラサム氏ハ大古ノ遺
碑ニ依テ方今既ニ跡ヲ見サル語言ヲ巧ニ考索
シテ昔時ノ人種ノ記載ヲ大畧事實ニ合セテ綴
リ是ニ由テ人ニ草昧ニシテ知ル可ラサル時代ノ

事ニ於テモ一二ノ證據ヲ得セシムルニ至レリ
方今歐羅巴洲ノ住民ソルベテ「種」ハ往昔
ヨリ此地ニ住居セシヤ又何レノ地方ヲ問ハス
他國ヨリ遷移シテ此地ニ來リ或ハ曠漠ノ野ヲ
開墾シ或ハ從來ノ土人ヲ逐ヒ其地ヲ得テ之ニ
住セシモノナリヤ此二條ハ最疑フベシ然レモ
歴史有テヨリ以來其中ニ載スル所ヲ見ルニ彼
此人民ノ相併吞攻畧セル事實陸續トシテ相見
エタリ是ヲ以テ此人種ハ往昔ヨリ歐羅巴ニ住
居マルモノト云ヘル説ヲ證スルニ足ルナリ方

今歐羅巴洲西邊ニ住メルセルチク種ノ如キハ
 一時甚廣大ナル地方ヲ占メシモノナレバ後又
 新ニ襲来リシモノアリテ之ニ據有セラル、ニ
 至レリ蓋此セルチク種ノ如キモ以前ハ其土人
 ヲ併吞セシモノナルヲ疑フ可ラス又歐羅巴洲
 各州ノ語言甚近似スルヲ以テ之ヲ考フレハ往
 古ノ住民ト云ヘル前説愈人ヲシテ其允當ヲ信
 セシムルニ足レリ但チセルキ「マダヤル語ノ如
 キハ歐洲ノ語言ニ非ス是ハ亞細亞ヨリ浸入セ
 シモノニシテ其履歷判然トシテ明カナリ其他

二種ノ語言アリテ方今諸人ノ知レル歐羅巴諸
 州ノ語言トハ全ク異ナリ即チ一ヲビスカイ西班
 州及カスコニ佛蘭ニテ用井ル「バスクエ」語ト
 云ヒ一ヲアルハニアン語ト云フ
 バスクエ人自カラ稱シテエウスカルダナシト
 云々其語言ヲ名ツケテエウスカラト云フ蓋往
 古ノ「イベルリアン」人種ノ苗裔ナルベシト
 ルラサム氏ノ説ニ此「イベルリアン」種ハ一時甚
 廣大ナル地方ヲ有シ方今ノ西班牙半島及佛蘭
 西ノ南部ナルカロシ河トロ子河ノ間地ヲ

古メタリト古學者ノ「セルツ」ト名ツクル種族ハ
 其實ハイベルリアン種族ナリセルツハ希臘語
 ニシテ「イヘルリアン」ト云ヘル羅馬語ト只其名
 ヲ異ニシテ用井タルノミナリ又山間ニ住メル
 「アルバニア」種ハ自カラ稱シテ「スキベト」ル
 ト云フ是亦古昔ノ種族ナリ然レ此二種族ノ
 如キハ太古ノ人種ニシテ尚特リ方今ニ存遺セ
 ルモノナル歟未之ヲ知ル可ラス
 ドクトルラサムノ説ニ據ハ「バスキュ」種ト芬蘭
 ニ住セル「オグリアン」種並ニスカンチナピア半

島ニ住メル「ラプラン」人種トハ同一ナリシ
 確然ナル可シ往古「オグリアン」人種ノ占メシ地
 一時ハ遠ク南方ニ迄及シ「瞭然」ニシテ論ヲ待
 タズ而メ「ラプラン」ヨリ「西班牙」ノ「ガラナ」迄
 ノ地ニ住メル古昔ノ「歐羅巴」人之ヲ方今ニ比ス
 レハ總テ同一種ノモノナリ其後他種ノ人民漸
 次ニ外邦ヨリ遷移シテ初ノ住民ヲ驅逐セシ
 譬ヘハ猶地質ノ第一層跡第一世ノ上ニ第二第
 三層跡第二世並ニ第三世ノ遞次ニ覆蔽スル
 カ如ク處々ニ些少ノ前民ヲ遺スノミニテ遂ニ

其全地ヲ有スルニ至レリ又他ノ查究ニ由レハ
 「バスケ」語ト「オグリアン」語ハ根元同一ノモノ
 トナス
 凡地球ノ種族或ハ此ヨリ彼ニ遷移シ或ハ此
 ヨリ驅逐セラレ或ハ彼此ノ血統混合シ或ハ漸
 次ニ消滅スル等ノ「ハ」人種論中稍歴史ニ類ス
 ルモノナリ然レモ此等ノ件ハ通常ノ記録又ハ
 口碑ニ傳フル所ニ於テ考ル如キニアラズ現今
 遺ル所ノ實跡ニヨリ遠ク其源ヲ考究シ確説ヲ
 得テ往古ノ模様ヲ著スモノナリ古昔サルマン

人ノ印度ニ侵入ノ説ノ如キハ則上文ニ論セ
 シ支跡ノ證ト為シ又「ドクトル」キ「イレスマエ」
 ル氏ノ論セル「セル」種遷移ノ説ヲ以テ一證
 ト為スベシ「マエ」ル氏ノ説ニ「セル」種ノ風
 俗性質甚遷移ヲ好メルガ故ニ一時ハ大ニ其疆
 域ヲ廣メ南西班牙ノ「ヒルラ」ス「オス」ヘル「キュル」
 スリ當時シ「ブラ」ルヨリ東「ア」ミ「ノル」北高海ノ
 際ニ至ル地方ニ於テ漸々殖民シ又一時ハ全ク
 其地ヲ占メシ「モ」アリ故ニ古今ノ歴史ニ大ニ
 蔓延セリト為ス所ノ諸國民ト雖モ亦此種族ニ

ハ比ス可ラス此セルチク種ハ亞細亞及アジヤ
 シリアヨリ昔時二道ニ沿テ歐羅巴及英吉利ニ
 遷移セシモノナルベシ其道一ハ南西ニ向テシ
 リア及ヒハ既多ヲ越エ亞弗利加洲ノ北濱ニ沿
 テ進ミ西班牙ノシブラルタルヨリ歐羅巴洲ニ
 達シ西班牙ヲ過キテ古昔佛蘭西ノ名至リ此
 處ニテ三岐シテ北ハ英吉利國及阿爾蘭ニ至リ
 南ハ意大利ニ至リ東ハアルプス山ヲ越エドナ
 フ河ニ沿テ進ミ黒海近地ニ至テ止マレリ故ニ
 初黒海近方ヨリ發起シ終ニ又其近傍ニ至テ終

レリ又一道ハ前ニ比スレハ直行シテ歐羅巴ノ
 東疆ニ達シ而シテ歐羅巴スシチアヲ過キ夫ヨ
 リ西岐シ一ハスカンヂナヒアヲ過キ一ハバル
 テク海ニ沿テ魯西亞及北日耳曼ヲ過キテ共ニ
 英吉利國ニ達セリ其他西北ニアル島嶼ニハ日
 耳曼海ヲ越テ達セリ
 上ニ記載セル種族遷移ノ支跡ハ尋常ノ歴史ニ
 属シテ人種論ニハ關係ナキ如シト雖亦甚緊
 要ニシテ欠ク可ラザルモノナリ譬ヘハ日耳曼
 種族ノ北方ヨリ侵入シテ羅馬帝國ヲ滅シ其後

既ニ各種族ト混和セル歐羅巴南部ノ住民ニ更ニ日耳曼種ノ血胤ヲ混ゼシ如キヲ以テ見ルヘシ此日耳曼種ノ英吉利國ニ移ルマ從來英國住民ナルセルツ種ヲ驅逐シ遂ニ此島内過半ハ其種族ヲ見ルヲ能ハサルニ至ラレメタリ

凡ニ箇ノ異種族互ニ相接近スルキハ必一方ハ他種族ヲ蚕食シテ其疆域ヲ廣拓シ一方ハ漸次ニ疆域ヲ縮小スルノ勢アルモノナリ故ニセルツ種ノ鄰邦ヲ蚕食シ疆域ヲ廣拓スルニ隨テ特ニ「オグリアン」種ノミナラス「イベリアン」種ト雖

氏漸次ニ其疆域ヲ縮小セリ又羅馬人ノ強大ナルニ及デ「セルツ種」「オグリアン種」「イベリアン種」ヲ攻掠シテ遂ニ西班牙及佛蘭西ニ其國風ヲ遺シ此國民ヲ以テ殆ド羅馬人ノ如ク為セリ又「スラボニック」種モ「オグリアン種」「チュラニア」種ノ其土地ヲ縮小スルニ從テ大ニ其疆域ヲ廣メタリ然レ「マダグヤル」人種「トルコ」人種ノ外ハ他ノ種族ノ「チャベタイ」種ヲ侵シテ其土地ヲ奪ヒ永久之ヲ占メシ如キハ決シテ其例ヲ見ズ但此二種族ノ「チャベタイ」人中ニ在ルハ實ニ例外ノ一

ト為ス可シ又「ストラボニク」種族モ亦羅馬種殊ニ
 日耳曼種ノ至ルニ及テ其疆域ヲ縮メタリ凡衆
 種族中ニ於テ最他種族ヲ侵掠蚕食セシモノハ
 日耳曼種ノ一派ナル「アングロサクシヨン」ヲ以
 テ巨魁トナス而シテ「米利堅大洲」「澳大利大洲」ニ於
 テハ此「アングロサクシヨン」種ノ疆域ヲ拓ク
 暫時ノ中ニ未曾有ノ廣衰ニ至レリ
 種族消滅ニ付テ甚緊要ナル例アリ即左ニ揭示
 セン往古ノ種族其國ノ風俗ヲ失テ見ルヲ能ハ
 サルニ至ルハ特ニ血胤ノ滅絶ヲ云フニ非ス若

茲ニ甚不和ナル人民雜居スル地ハ亦必一方ノ
 人民滅絶スル勢アルハ論ヲ俟タス此例ノ最
 然タルモノハ「米利堅土人」ナリ此土人ハ「歐羅巴
 ヨリ移住セル」人口ノ増加スルニ隨テ速ニ滅絶
 シ方今「墨西哥灣」ニ散布セル諸島ニハ往古曾テ
 「米利堅土人」ノ住セシヤ否ヲ知ルヲ能ハサル
 ニ至レリ○「米利堅合衆國」ノ「ドクトル」ハ「ト氏」ノ
 近頃著ハセル「タイプス」オ「メンカイ」ニ「グット」云
 フ書中ニ「米利堅土人」ノ一部ニシテ形状美麗ナ
 ル「コクタウ」種ニ付テ論アリ曰ク「モゼル」府外ノ

街路ニ毎日逍遙スル「コックタウ」ノ遺種ヲ見ルニ
 「ラニゲット」ノ外他物ヲ以テ其身ヲ蔽フ「ナク
 家居ハ樹皮ヲ綴リテ天幕形ニ作り日々一ノ營
 業ヲモ為サズ漫然トシテ光陰ヲ送リ只其妻孥
 ノ林樹間ニ在テ少許ノ貿易ヲ為スノ外ハ只管
 ラ人ノ愛憫ヲ乞ヒ人ニ依頼シテ食ヲ求ルノミ
 實ニ禽獸ヲ去ル「遠カラスト云フベシ假令大
 聖人出ル氏人カヲ以テ此等ノ種族ヲ開化ノ域
 ニ導ク「ハ決レテ能ハサルナリ故ニ米利堅土
 人ノ中ニ雜居シテ之ヲ開化セシ「ヲ論ズルハ

實ニ無益ニシテ猶水牛ノ性質ヲ變化セシ「
 ト企ツルガ如シ「
 容色殊異ナル種族多ク相集テ大ニ其血統ヲ混
 和スルニ由テ生スルモノハ之ヲ彼此雜駁ノ人
 種ト為ス然レ氏斯ノ如ク殊異ナル種族多ク相
 集テ大ニ其血統ヲ混スルモノハ方今地球上ニ
 於テ僅々數箇ノミ南米利堅洲ノ一部並ニ墨西
 哥ノ一部ノ人民ハ歐羅巴人及米利堅土人其他
 奴隸トナリテ來レ氏黑人種及馬來人種等ノ相
 混ゼシ種族ヨリ成レルモノナリ乃歐羅巴人ト

黑人ト配合シテ其間ニ生ゼル所ノ兒ヲモラト
 一ノ種ト為シ歐羅巴人ト米利堅土人ノ間ノ子
 孫ヲメスチソイスト為シ黑人ト米利堅土人ノ
 胤裔ヲサムボイス種トナス其支派ノ如キハ無
 数ニシテ枚擧ス可カラズ譬ヘハ歐羅巴人トモ
 ラト一ノ種ノ子ヲテルセロント名ツケテルセ
 ロント歐羅巴人ノ兒ヲコートルテロント又ハコト
 ボルトト名ツケコトボルトト歐羅巴人ノ
 胤ヲコイソテロント為ス其支派ノ多キ一此ノ
 如シ而シテコトボルトニ至リテ黑人ノ血統既

ニ竭キテ其跡ヲ絶チ全ク歐羅巴白哲人ノ血統
 トナレリ若其血統猶存スルニ至微ニシテ知ル
 可ラス然レハ此等ノ混和アル地方ニ於テ純粹
 ノ白哲人ノ有セル通義ハ「クエンテロ」ニ非サ
 レハ之ヲ得ルヲ能ハス墨西哥及南米利堅大地
 ナル秘魯智利巴西等ト西印度諸島ノ殖民地ノ
 如キハ此混和ノ最顯ナル所ト為ス而シテ其混
 和ニ由テ生ナル所ノ事ハ實ニ甚無益ナルノミ
 ナラズ反テ害アリト為ス其故ハ何レノ地方ニ
 於テモ白哲人種ハ黑人種ヲ下視シ之ヲ待遇ス

ルヲ甚倨傲ナル故ニ黒人種ハ之ヲ嫉視シテ此
 界限ヲ破ラント欲スルヨリ遂ニ恐怖スヘキ暴
 動ヲ為スニ至リ又白哲人種ハ己ノ純粹ナル血
 統ヲ他ノ人民中ニ播布シテ始終保有セントノ
 熱心假令増サバルモ減スルヲ無キヲ見レバ方
 今無数殊異ノ種族ヨリシテ完全欠ル所ナキ混
 同種族ヲ生出センヲ恐ラクハナカル可シ若殊
 異ノ種族相混スルニ依テ従前ノ模様ニ比シテ
 更ニ幸福ヲ生スルナキハ此混和ハ果シテ欲
 ス可シヤ否ヤハ未知ル可ラス此混和スルト否

ト何レカ可ナルハ南北米利堅洲ノ人民ヲ見テ
 了解スヘシ北米利堅ニ於テハ幼稚ノ片ヨリ其
 親父ノ撫育ニ依テ嘗テ山野ニ遊獵シ鄰人ト争
 鬪スルヲ務メタル野蠻ノ土人種既ニ滅絶シ
 其住メル地方今ニ於テハ善良純美ノ種族アリ
 テ之ヲ占メ文學工藝貿易製造ヲ盛ニシ文明
 開化ノ歩ヲ進メ而メ造物主ノ其土地ニ賦與セ
 ル礦植諸物ヲ資用シテ邦國ノ富強ヲ増スニ至
 レリ

合衆國ノ南部

格阿利納
 奴隸ヲ使役スル諸州

ニ久ク居

住シテ血統混和ノ莫跡ヲ目撃セシドクトルハ
 ト氏ノ説ニモラト「種族ハ人類中ニ於テ最短
 命ナリ女子ノ如キハ殊ニ尪弱ニシテ胎孕スル
 一少ナク假令子アルモ多クハ夭殤ス又ドクト
 ルモダス氏南米利堅ナル混和種ヲ論ジテ曰ク
 毫モ其祖先ノ善徳ヲバ享スシテ反テ其惡風ヲ
 襲用セリト
 種族消滅ト云フハ一種族ノ血統ノ滅絶スルヲ
 云フニ非ス只一種ノ國民タル區別ヲ示ス所ノ
 徵候ヲ失フヲ云フノミ譬ヘハ英國コルンウェー

ル州ノ住民ハ近世ニ至ル迄セルチク語ヲ話セ
 リ然ルニ方今ハ之ヲ棄テ全ク英國語ヲ用井ル
 ニ至レリ是ニ於テセルチク種ト為スヲ得
 然レ氏セルチク種ノ血胤全ク滅絶シテ其跡ヲ
 留メザルニハ非ザルナリ又方今真ノ「バスクエ」
 種族及其餘風ノ存スル處ハ只西「ベラ子ス山」
 兩麓ナル編小ノ地方ノミナリト雖氏往古ハ必
 廣大ノ地ヲ占メテ方今ノ西班牙葡萄牙及佛蘭
 西南部ノ住民等皆此種族ヨリ出テ之ニカルテ
 「人羅馬人」チク人「ムーリス人」等ノ血統ヲ

混シクルヲ疑フ可ラズ
 上ニ論ズル如ク種族純一ニシテ他ノ種族ト混
 和セザルヲ以テ善ト為スヤ又他ノ種族ト混和
 スルヲ以テ善ト為スヤニ付テドクトルラサム
 氏ノ注意スル所左ノ如シ方今種族ノ品級ヲ貴
 重シテ之ヲ論ズルノ實ニ太甚ト云フヘシ其故
 ハ往古ヨリ方今ニ至ル迄至純至粹ノ血統ヲ傳
 フルノ實ニ稀レニシテ假令之アルモ例外ト
 為ス可シ若至純至粹ノ血統連續スル氏其古昔
 ノ風俗ハ之ト共ニ存スルヲナキモノナリ方今

強盛ト稱スル諸國ノ人民モ其過半ハ混和種ト
 為ス此等ノトヲ見レバ人民ノ優劣ハ種族ニ依
 テ差等アルニ非サルヲ明カナリ然レ氏人種ノ
 混和ハ大ニ世ノ文明ヲ進歩セシム可シト云ヘ
 ル説ハ亦至純至粹ナル血統ノ連續ヲ以テ善ト
 為ス説ノ太甚ナルニ異ナラズ方今地球上ノ諸
 國ニ於テ最不可ナルモノハ往古ノ性質ヲ其儘
 ニ存シテ變ゼザルモノトナス歐羅巴ニテ古ヨ
 リ混和ナキ至純至粹ノ人民ハバスターニス人ヲ
 プランド人波蘭人フリシアンズ人ナリ然レ氏

方今此諸種族ノ性質ヲ見テ甚貴重スベキモノ
トナスモノ稀ナリ
凡國民互ニ一種ノ長所不長所アリ又互ニ一種
ノ好惡アリテ其途ヲ異ニスルハ屢歴史中ニ記
載アリ現今宇宙ノ各國ヲ見ルニ其事實又斯
如シ故ニ國民ニ長所不長所好惡ヲ生ズルハ
血統ノ然ラシムル所ニシテ人力ノ能ク動カス
所ニ非スト云フ説ハ實ニ自暴自棄ニシテ事理
ヲ解セザルモノト云フヘシ然レハ血統ニヨリ
テ一二ノ優劣ヲ生セザルニハ非レハ此項ハ人

種ヲ精密ニ查究スル學者ヨリ見ルハ語言形
狀等ニ比シテ更ニ採用スルニ足ラサルモノナ
リ

内村耿之介 校

人種篇上終

查字本學昔其大時高所

Handwritten notes in the bottom left corner of the left page.

